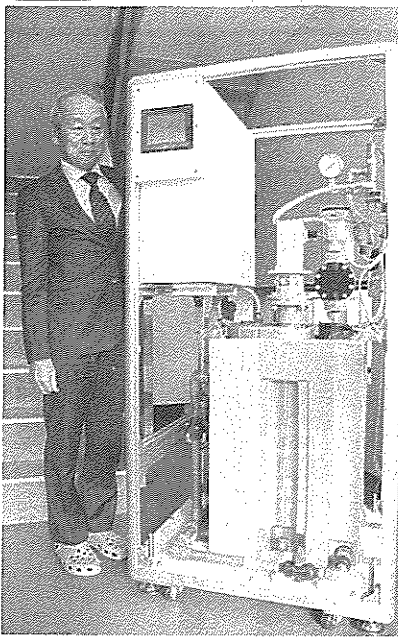




環境科学が製造する人工温泉製造装置。小型化し、年内の発売を予定している

環境科学(新潟西区)

人工温泉装置の製造販売を手掛ける環境科学(新潟市西区)は、装置の小型化による販路拡大を目指している。人工温泉の浴場を備えるビジネスホテルなどが近年増加傾向にあり、小規模の施設でも装置を導入しやすくするのが狙い。2019年中に発売し、20年までに装置の売り上げを倍増したい考えだ。

同社は1988年、人工温泉装置を開発。自社で製造販売している業務用入浴剤の濃度を調整し、天然温泉に近い湯を自動で供給する。これまでに全国200カ所以上の温浴施設やスパ・リソクラブなどに販売・リースしてきた。入浴剤はアルカリ湯や重曹湯など主に6種類の泉質を選べ、有名温泉地の湯の色や香りなどを再現する。

同社は拡張のため、従来より小型の装置を開発中。小型装置は現行タイプよりも高さ、幅を半分以下とし、高さ80センチ、幅60センチ、奥行き50センチのサイズとする。従来の湯量10〜20リットルを0.5〜2リットル向けと小さめの浴槽に対応させ、価格も従来の400万〜700万円から、100万円台とすることを目指す。

同社が人工温泉装置の小型化に注力するのは、ビジネスホテルやカプセルホテルが、サービスの付加価値を高めるために浴場を設け、装置を導入するケースが増えてきたためだ。インバウンド(訪日観光客)の増加による温泉ニーズの高まりも後押ししている。20年東京五輪、25年開催予定の大阪万博とさらなるインバウンドの増加が期待されることから、ホテルへの営業を強化する。また、若者や外国人に人気のあるシェアハウス、ゲストハウスなど小規模施設の需要も取り込みたい考えだ。

同社の18年12月期の売上高は約1億7千万円。装置

人工温泉装置を小型化

年内販売 ビジネスホテル向け

生産活動持ち直し

12月県経済 基調判断は維持

の売り上げは現在の年約2千万円から20年に2倍の4千万円を目指す。豊島則夫

社長は「装置を広めて、海外の人にも気軽に温泉を味わってもらいたい」と話す。

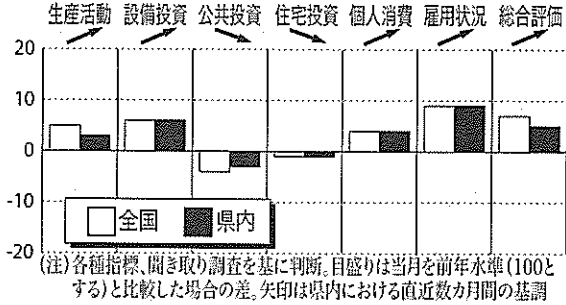
額が増加している。非製造業では人手不足感の強い状況が続く中、情報化や省力化・合理化に向けた投資が活発化しており、前年を上回っている。11月の非居住用建築物着工床面積は、前年比25.9%増と2カ月連続で前年を上回った。

新潟経済社会リサーチセンターがまとめた2018年12月の県経済によると、設備投資は緩やかに増加している。生産活動や個人消費は緩やかに持ち直しており、住宅投資は下げ止まりつつある。一方、公共投資は減少している。基調判断は「緩やかに持ち直している」を維持した。同センターは「中国経済の失速懸念や米国の金利政策による為替相場への影響などを注視したい」としている。

【生産活動】はん用・生産用・業務用機械は国内の設備投資の増加を背景に回復している。金属製品は建築需要が堅調なことから、建設用製品などを中心に持ち直している。電子部品・デバイス是一部に弱さがみられるものの、車載向けなどの受注が増加しており、前年をやや上回っている。食料品は横ばい圏内で推移している。

【設備投資】製造業では需要拡大への対応から工場新設などの大型投資がみられるほか、情報化に向けた投資なども伸びており、投資

【個人消費】11月の小売業販売額は前年比0.6%増となった。ドラッグストアやコンビニエンスストアなどが前年を上回った。12月の乗用車(軽含む)新規登録・届出台数は前年比1.6%



情報ボックス

デビュー

■豚まんの具包んだパン

敷島製パン(名古屋市)は豚まんの具を包んだパン「まるで豚まん」=写真=を発売した。タマネギや豚肉、タケノコなど一般的な豚まんと同じ具で、ふんわりしたパン生地を使った。温めなくても気軽に食べられる。関東や中部、近畿、中国、四国で販売している。店頭想定